

風疹抗体保有率の推移に関する研究

浦野 隆（東京都済生会中央病院）

研究目的

今回流行前後の抗体保有率の推移より、流行の状況を把握することを目的とした。

研究方法

東京都港区住民を中心として、年齢別抗体（HI）保有状況を年次別に比較検討すると同時に、病院を訪れた妊婦の抗体保有率の推移も合わせて調査した。

研究結果

1977年における住民3,139例の年齢別HI抗体保有率は2～5才27.9%，5～10才46.4%，10～15才69.7%，15～20才69.5%と流行の影響がみられるが、20～25才、25～30才ではそれぞれ73.0%，73.4%に留まっていた。

流行前1973年の抗体保有率と1977年のそれとを比較した（図1）。図中、1973年の抗体保有率が、流行をみずに経過したとすれば破線のごとき状態となると推定されるが、これと1977年との差が今回の流行の影響と考えられる。これによれば、幼児、学童、中学生を中心に流行が強かったことが示される。ここで25才以上の罹患が少なく、抗体保有率に影響を及ぼすことが少なかった点が注目される。この間、1973年より1977年までの5年間の年次別抗体保有率の推移を図2に示した。

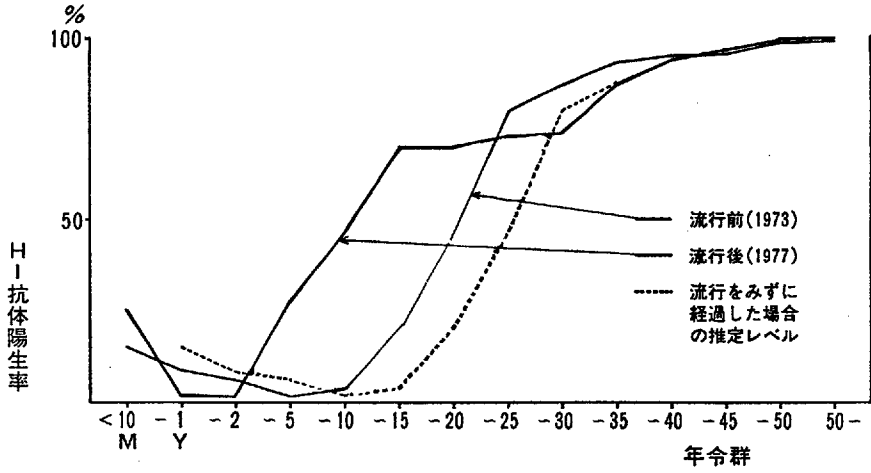
1970年以降77年まで8年間にわたる妊婦の抗体保有率をみると（表2）、前回の流行後の1970年21～25才83.1%，26～30才86.9%，平均85.4%の保有率は、今回流行の始まった1975年には21～25才74.5%，26～30才85.1%，平均80.8%と低下している。流行後の推移は21～25才は76年78.3%，77年73.0%となったが、26～30才ではそれぞれ81.2%，73.4%と継続して低下の傾向を示し、21～30才の平均抗体保有率は、流行の影響をあまり受けずに、低下の傾向が持続していることが注目された。このことは、今後の対策として、妊娠可能年齢婦人の免疫度を高める方策が行われる必要があることを示すものであろう。

風疹ワクチン接種成績

北研KRTワクチンを小児3例、成人女子13例、計16例に接種した。全例副反応皆無で100%に抗体上昇を認め、接種後の平均抗体価は $2^{5.37}$ であった。

阪大微研風疹ワクチンlot 102を成人女子45例に接種した発熱例は1例のみ 38.0°C を認め、抗体獲得は44例、97.8%であった。平均抗体価は $2^{5.3}$ 。ほかに成人女子50例にワクチン接種を行ったが副反応は認めなかった。

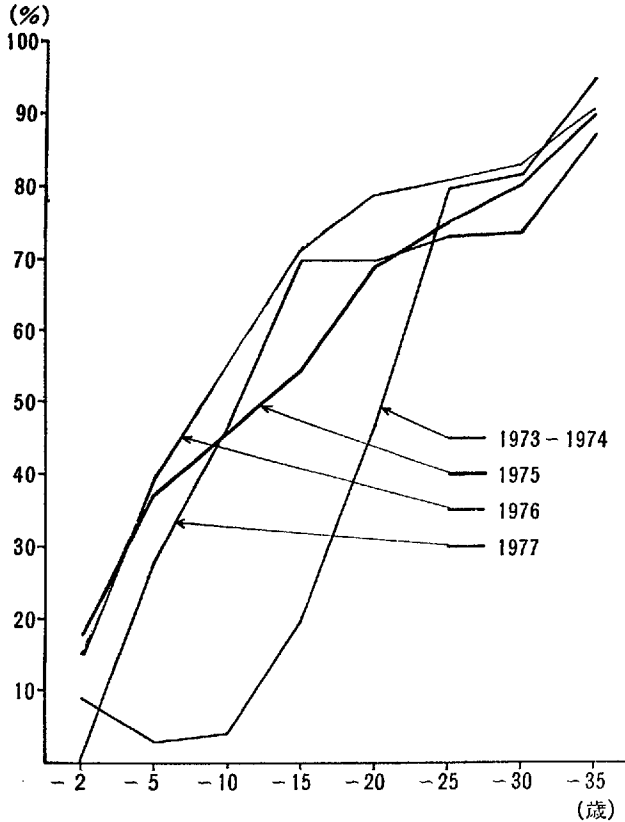
図 1 今次流行前後の風疹HI抗体保有状況の推移



—済生会中央病院, 1977—

図 2

過去5年間の風疹HI抗体保有率の推移



—済生会中央病院—

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的

今回流行前後の抗体保有率の推移より、流行の状況を把握することを目的とした。